

れきしみち

2025.10
No.138



白山垂迹曼荼羅(神光寺蔵)

大岡白山神社(安城市大岡町)
白山媛神社(安城市上条町)
桜井神社(安城市桜井町)

P2 特集

特別展

白山信仰と 三河三白山

- P4… 連載「安城にゆかりのある人々3」
- P5… 収蔵品紹介 カナダからの手紙-カナダ移住者の暮らし-
- P6… 万葉花ごよみ-その八 ナツメ-
- P7… 展覧会関連イベント/秋の催し物案内
- P8… さとまつり/市民ギャラリーよりお知らせ

12日(日) 和太鼓競演

11日(土) 12日(日) 商品券など豪華景品が当たる 富突き

12日(日) 火縄銃演武

さとまつり

第20回

令和7年 10/11(土) 12(日) 9:00~16:00

同時開催

第34回 市民陶芸まつり

10月11日(土) 9:00~16:00
10月12日(日) 9:00~15:00

会場 安祥公民館 (☎0566-77-5070)

作品展示 公民館の自主グループ等の作品を展示します。
陶芸作品 チャリティーパーザー 市内の陶芸グループ等にご協力いただき、色々な陶芸作品を手ごろな価格で販売します。
一日陶芸教室 10月11日(土) 9:30~11:30 ※10月11日~要事前申込
待田和宏先生(日展会員)の指導で湯呑、飯茶碗などを作ります。
【参加費】500円
【定員】24名(先着順)※中学生以上
【申込】公民館Webページ、窓口にて受付

会場

安祥文化のさと

- ・安城市歴史博物館
- ・安祥公民館
- ・安城市民ギャラリー
- ・安祥城址公園
- ・安城市埋蔵文化財センター

プログラム (赤字は有料イベント) ▶ 詳細・申込み等はお問合せください。(TEL:0566-77-6655) ※都合により日時・内容等を変更する場合があります。ご了承ください。

安祥城址公園	市民ギャラリー	安祥城址公園	歴史博物館
11日 ■殺陣ショウ! ■三河万歳披露 12日 ■棒の手演武 ■子ども武者行列「いざ!安城合戦!」	11日 ■桜井剛作教室 ■歴史団体発表 ■土器作り教室 12日 ■書の実演 ■ちぎり絵で飾ろう マイフォトスタンド 11日 12日 ■カラフル粘土で古代風トンボ玉をつくろう!	11日 ■クイズラリー ■さとのマルシェ ■勾玉づくり 東尾八幡社で秋のこ朱印頒布	11日 12日 ■花押はんこづくり ■的あて ■特別展「日本妖怪展」 観覧料 700円 (中学生以下無料) ■常設展 博物館ボランティアガイド

安城市民ギャラリーよりお知らせ

市民ギャラリー企画展 旅人のレンズー風景画の世界ー

所 輝夫《渾美の漁港》

山口豊泉《初冠雪》

これまで本市では、地元ゆかりの美術家作品を収集してきました。収蔵品と市内小中学生作品を併せての企画展示は、平成17年から開催し、今年で20回目を迎え、昨年までに市内小中学生の作品1,606点を展示してきました。本展では、「風景」をテーマに、市民ギャラリーのコレクションの中から選りすぐった作品と、市内小中学生から寄せられた作品を併せて紹介します。

【開催期間】 令和7年10月3日(金)~10月13日(月・祝)
【休館日】 10月6日(月) ※10月13日(月・祝)は開館
【時間】 9:00~17:00
※入館は16:30まで(最終日の観覧は16:00まで)
【会場】 市民ギャラリー展示室D・E
【観覧料】 無料

安祥文化のさと

「安祥文化のさと」とは安城市にある松平氏四代50年の居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

[全館共通事項]

住所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀 30番地
休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)

安城市歴史博物館 開館時間 / 9:00~17:00
TEL:0566-77-6655 FAX:0566-77-6600

安城市民ギャラリー 開館時間 / 9:00~17:00
TEL:0566-77-6853 FAX:0566-77-4491

安城市埋蔵文化財センター 開館時間 / 9:00~17:00
TEL:0566-77-4477 FAX:0566-77-6600

安祥公民館 開館時間 / 9:00~21:00
TEL:0566-77-5070 FAX:0566-77-6062

公式HP、SNSもご覧ください

安城市歴史博物館 URL / <https://ansyobunka.jp/>

特別展

白山信仰と

三河三白山

大岡白山神社(安城市大岡町)
白山媛神社(安城市上条町)
桜井神社(安城市桜井町)

令和7年 11月22日(土)～
令和8年 1月18日(日)

[休館日]
毎週月曜日
12月28日(日)～1月5日(月)
※11月24日、1月12日は開館

[開館時間]
9:00～17:00(入館は16:30まで)

[観覧料]
500円 ※中学生以下無料
※団体(20名様以上)400円

安城市内に所在する大岡白山神社(大岡町)・白山媛神社(上条町)・桜井神社(桜井町)の三社は、総称して「三河三白山」と呼ばれています。三社には徳川家康や江戸幕府より朱印地を与えられた等の由緒も伝えられます。本展では三社に共通する白山信仰を、各地に伝わる資料から紹介するとともに、白山信仰と三河三白山の由緒について紹介します。

第一章 白山開山

白山は御前峰(ごぜんがみね)を中心とした、大汝峰(おおくまね)、別山(わかやま)などの峰々の総称です。石川県(加賀)・福井県(越前)・岐阜県(美濃・飛騨)の境にそびえ、山体に雪をいただく様子は、古くから信仰の対象だったと考えられます。この白山を修行の場として開いたと伝えられるのが、越の大徳と呼ばれた泰澄(たいさう)です。泰澄は越前国麻生津(福井県福井市)に生まれた僧侶で越知山で修行に励みました。泰澄の事績を記した「泰澄和尚伝」に



泰澄和尚伝(国宝 称名寺蔵、神奈川県立金沢文庫管理) 展示期間12月16日～1月18日

「白山争論に勝訴し、江戸時代においては周辺地域との白山争論に勝訴し、白山における実権を獲得して支配を強めました。また平泉寺を登拝口とする越前禅定道は、白山禅定への最短経路ということもあり多くの登拝者が利用しました。越前禅定道を利用した道中記も多く伝わり、白山参詣の様子を伝えていきます。」

第二章 白山信仰の展開

平安時代に入ると、加賀・越前・美濃の三方から禅定に至る登拝道(禅定道)が開かれました。峰々の禅定にはそれぞれ、御前峰に白山妙理大菩薩、大汝峰に大己貴神、別山に別山大行事が住まうとされ、白山三所権現として信仰を集めました。それとともに、加賀禅定道には白山本宮(石川県白山市)、越前禅定道には平泉寺(福井県勝山市)、美濃禅定道には長瀧寺(岐阜県郡上市)が登拝の拠点となる馬場として栄えました。「白山之記」によれば、三つの馬場が開かれたのは天長九年(八三二)とされます。

加賀馬場

加賀禅定道の拠点となった白山本宮は「延喜式」神名帳にも名がみえ、加賀国内でも重要な地位を占めていました。久安三年(二四七)には延暦寺の末寺となり、他の馬場に先んじて天台宗の影響下に置かれました。

越前馬場

越前馬場の中核となった平泉寺は、白山開山からほどなく、泰澄が自ら泉のほとりに白山神を祀る祠を建立したことに始まると伝えられます。中世においては延暦寺の末寺となり庇護を受け、南谷三六〇〇坊、北谷二四〇〇坊ともいわれる坊を抱えた北陸でも有数の勢力をほこり



絹本着色白山曼荼羅図(石川県指定文化財 能美ふるさとミュージアム蔵)

以降、白山本宮を中心とした白山七社が馬場を統括するようになります。戦国期に一向一揆との争いで一時荒廃するものの、白山本宮は加賀藩主前田家の庇護を受け再興を果たします。江戸時代においては、白山禅定の支配権をめぐる争論には積極的に関

ました。天正二年(二五七四)に一向一揆勢力によって全山が焼失したため、現在その全容はうかがえないものの、境内図などから当時の面影を偲ぶことができます。江戸時代においては周辺地域との白山争論に勝訴し、白山における実権を獲得して支配を強めました。また平泉寺を登拝口とする越前禅定道は、白山禅定への最短経路ということもあり多くの登拝者が利用しました。越前禅定道を利用した道中記も多く伝わり、白山参詣の様子を伝えていきます。」

美濃馬場

美濃馬場の長瀧寺も、平泉寺と同じく泰澄による開基を伝えます。加賀・越前同様に延暦寺の勢力下となったことに加え、美濃馬場では中世から御師の活動がみられる点も特徴的です。尾張や三河、遠江を中心に広く檀那場を有し、各地の檀那場の譲渡も行われていたことが資料から読み取れます。各地の檀那場から白山参詣に訪れた人々の盛況ぶりを指して美濃馬場は「上り千人、下り千人」とも称されました。

江戸時代には浜松の二諦坊(にせうぼう)との争いに敗訴して檀那場の実権を失い、白山の支配権も平泉寺に譲りました。しかし長瀧寺に伝えられる「莊嚴講執事帳」には、夏山の時期には白山への参詣者のほか、白山・立山・富士山を巡る三禅定の登拝者で賑わっていたことが伝えられています。

第三章 三河と白山信仰

三河の白山信仰

三河における白山信仰は、寺社の縁起では養老年間まで遡るものの、実際に当地に定着した時期は定かではありません。しかし中世には美濃馬場の御師の活動がみられることに加え、財賀寺真如院(豊川市)と桜井寺慈光坊(岡崎市)との間で起こった争いが特筆されます。これは両寺が牛久保領の白山先達職を争ったもので、最終的には永祿八年(二五六五)に徳川家康が桜井寺にその権利を安堵しました。また家康自身も、家臣への知行安堵状に白山



松平家康起請文(名古屋博物館蔵)

河でも庶民による白山参詣が活発に行われました。その様子を記した道中記からは、当時の白山の情景はもちろん、参詣に伴う各所の旅の様子も垣間見えます。

三河三白山

白山媛神社、大岡白山神社、桜井神社の三社は、昭和四十年(一九六五)に安城市指定史跡となっています。しかし、三河三白山と総称されるようになった理由は定かではありません。正徳二年(七三二)に刊行された「和漢三才図会」には三河国の白山社として右記の三社が紹介されています。



三河雀(豊橋市図書館蔵)



白山垂迹曼荼羅(神光寺蔵)

るものの、「三河三白山」とは記述がありません。一方で、宝永四年(七〇七)の序文を持つ「三河雀」には、断片的ではあるものの「三河(国)三白山」と記されています。三社はそれぞれ養老二年(七二八)の成立を伝えるものの、詳しい由緒が社伝から確認できるようなものには戦国時代になってからのことです。大岡白山神社は松平清康が造営した社殿が織田弾正によって焼き払われ、その後家康によって再建されたと伝わります。桜井神社には大永七年(二五二七)の神明社造営の棟札に加え慶長十五年(二六〇)の白山社造営の棟札が残され、江戸時代初期には白山社を称していたと推測できます。一方白山媛神社にも、慶長八年に五〇石を寄附するとして家康の朱印状写が伝わります。同社は神宮寺である神光寺の住職が別当職として祭祀にあたり、たびたび火災に見舞われたものの、同寺には越前系の特徴を持つ白山垂迹曼荼羅など白山信仰を示す資料が伝わりました。

市域からは一見縁遠いように思える白山も、実は三河と深い関連がみられます。ぜひ、展覧会で白山信仰と三河三白山の由緒に触れてみてください。

(文責…千田佑香)

安城にゆかりのある人々3

稲の神様・岩槻 信治

文責：小田健二（安城市歴史博物館館長）

昨年の秋以降、米不足や米の価格の話題がマスコミに取り上げられ、米への世間の関心は高いものがあります。

ところで、米の品種は数多くありますが、昭和五十四年（一九七九）以降、全国の作付品種の第一位は「コシヒカリ」です。令和四年度には三十三・四％と第二位の「ひとめぼれ」の八・五％を大きく引き離しています。では、「コシヒカリ」がトップとなる前に、昭和四十五年から九年間一位を占めていた品種を「存じ」でしょうか。それは「日本晴」という品種で、安城市の愛知県農業試験場で開発・育成されたものです。この「日本晴」が誕生した背景には、日本デンマークと呼ばれていた時代の安城にあった県農事試験場で米の品種改良に心血を注いだ二人の育種家の存在があったからです。当時の多くの育種家

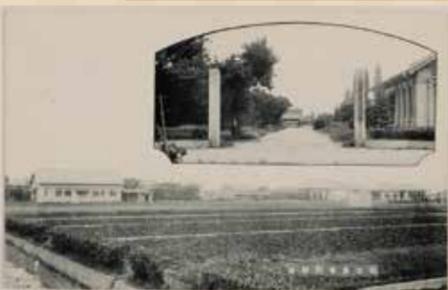


岩槻信治（本館蔵）

は東大や高等農林学校を卒業したエリートでしたが、農学校を卒業しただけの彼がエリートをしのごく大きな成果をあげたのです。今回は稲の神様とまで呼ばれたこの育種家「岩槻信治」を取り上げます。

岩槻は、明治二十二年（一八八九）碧海郡長瀬村中園（現在の岡崎市巾着町）に生まれ、小学校を終えた彼は、安城にあった県立農林学校に入学しました。学校では「神童」と呼ばれ、在学中は首席を通したそうです。明治三十九年、農林学校を卒業した岩槻は、母校の高等小学校の教員となりました。ところが、その年の秋に、大きな転機が訪れます。当時、県農事試験場の場長であった山崎延吉が岩槻の才能を見込んで、試験場へ誘ったのです。その結果、彼は二七歳で試験場種芸部に就職しました。

明治四十四年の夏、岩槻は、大阪にある農商務省農事試験場畿内支場に派遣され、育種技術を二週間ほど学びました。ここで、経験が彼に「一生の仕事は之だ」と決心させました。安城にもどった岩槻は、これ以降、稲の品種改良の研究に本格的に取り組むことになりました。稲の品種改良は、多大な手間と根気のいる仕事で、まず県下の千種類に及ぶ稲全部を農事試験場の圃場に植えて育てました。し



戦前の県農事試験場（本館蔵）

かし、実際は同じ種類で名前だけが異なるものが多いなか、改良を重ねた結果、数年のうち

にのぼる二代目に期待がかなうものはなく、続く三千株にのぼる三代目の中に「株だけ、岩槻の期待にかなうものがあり、それが最終的に「千本旭」となりました。

ここまでの岩槻の経歴をみると仕事一筋とみえますが、彼は、「三味線をたしなみ、書にも堪能でした。また「三江」と号し、民謡の作詞作曲、振り付けも行いました。このように岩槻は多彩な才能をもった粋な人でもありました。

さて、その後の戦時体制の中でも、岩槻は、国策である米の増収に向けて、数多くの新しい品種を生み出しました。しかし、終戦後間もない昭和二十三年五月九日、五八歳という若さで亡くなりました。農業を愛した岩槻にふさわしく、葬儀は「農民葬」で執り行われたそうです。

こうして成果をあげた岩槻は大正五年（一九一六）、種芸部主任に抜擢されました。主任となった岩槻が求めたのは病気に強く、多収の稲でした。大正七年、彼は以前から目をつけていた「京都旭」という品種と「竹成」とを交配しました。「京都旭」は、米質が良く、病気に強い長所をもっていました。穂から実が落ちやすいという欠点をもっていました。岩槻はこの点を改良しようとして、何千という株から偶然出てきた、病気に弱く、収獲量が少ないという「竹成」の欠点をもたない数株から、新しい品種「愛知旭」を作り上げたのです。この新種は、味が良く、病気に対する抵抗力が強く、脱粒しにくいものでした。

岩槻の育種方法は、当時としては大変ユニークなものでした。必要なら外国の稲を取り入れたり、交配して間もない初期世代を次の親に使ったりするなど、国の育種ではとても考えられない手法も取り入れました。そして、岩槻の柔軟な発想と意志は、岩槻亡き後も愛知県農業試験場に受け継がれ、「日本晴」という大変優れた品種の完成につながったのでした。

今後も、気候変動等に適応するため、米の品種改良が続けられるに違いありません。日本人の主食である米の安定供給のため、陰で支えている人たちの努力を忘れてはならないと思います。

昭和に入ると、さらに多収種が追求されるようになりました。そんな中、岩槻は昭和三年（一九二八）に、新品種「千本旭」を完成させました。彼が目をつけたのは「白千本」という在来種でした。この種は株分かれが多く、耐肥性や耐病性をもっていました。小粒でした。彼はこの「白千本」と「京都旭」を交配して新品種をつくりあげようとしていました。六千株

〈参考〉
・ある農村振興の軌跡「日本デンマーク」に生きた人々（一九九二）岡田洋司
・「こめの履歴書 品種改良に賭けた人々」（一九八六）山本文二郎

収蔵品紹介

カナダからの手紙

—カナダ移住者の暮らし—

当館には今から九〇年程前に、カナダのバンクーバーから届いた手紙が九通あります。そのうちの三通は最近の資料整理により新たに発見されたものです。手紙を書いたのは徳田きりという女性です。送り先は今の市内堀内町に嫁いだ姉すずさと、今の市内高棚町に嫁いだ姉まさでした。手紙の内容はカナダでの生活を知らせるものでした。発見の三通はまさ宛てのものでした。

徳田きりは明治村榎前（市内榎前町）の出身で、名古屋医科大学付属病院（現在の名古屋大学病院の前身）の看護婦でした。結婚後、昭和九年（一九三四）五月に夫の徳田与市とカナダへ渡航しました。バンクーバー



すずさ宛ての封筒

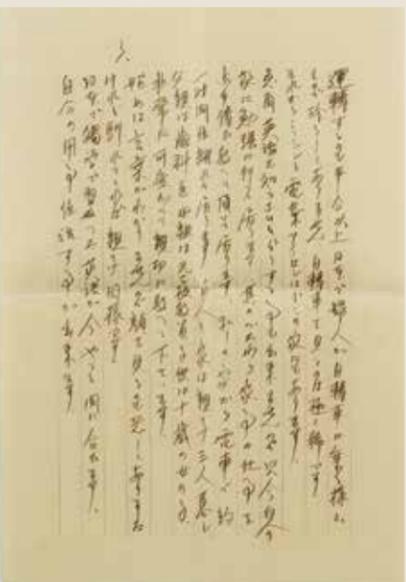
の日本人の街といわれるパウエル街に近いブリンセス通りに住みましました。ここでは二人の姉宛ての手紙の内容を簡単に紹介していきます。

渡航して三か月後の手紙によると、自宅から二時間電車に乗った所にあるアメリカ人の歯科医の家で家事の手伝いをしながら英語を学ぶことにしたとあります。英語が出来ないと買い物も自由なためでした。歯科医の家には元教師の夫人と二〇歳の娘がいました。きりは夫と離れて住み込みで働きます。

一月ほどで日常の用事の英語は少しわかるようになり、夫人からは料理や菓子など色々なことを教えてもらっているとのことあります。仕事は食事の用意、皿洗い、部屋の掃除、衣服の洗濯、アイロンかけ、衣服のほころびをミシンで縫うことで「週間に二ドル（六円位）もらいました。木曜と日曜の午後にはのみ自宅に帰り、夫と過すしていました。

ここでの食事は毎日ジャガイモや牛肉の料理を食べ、三食ともパン食にコーヒーや紅茶を飲み、食後には菓子や果物を食べるという習慣でした。きりは「美味しいご馳走ばかりです」と書いています。

きりが見たバンクーバーの白人の家々は、赤・青・黒・褐色など色鮮やかな建物で、庭には樹木や花壇があるとあります。家にはピアノやラジオあり、きりも仕事をしながらラジオを聞いていると書いています。また、白人はゴルフやトランプを好んでいること、日本で女性が自転車に乗るように、ここでは女性が車の運転をしているとあります。



生活の様子を伝える手紙

正月明けの手紙には、年末年始の様子が書かれています。十一月頃から街ではクリスマス飾りつけが始まり賑やかで歳の市のようなとあります。二十五日の朝には、家のツリー下にプレゼントが置かれました。夫人の娘に京人形

それから三年後の昭和十二年五月の手紙には、昭和天皇の名代としてイギリス国王の戴冠式に出席するため、秩父宮雅仁親王と勢津子妃が渡航途中の三月二十九日にバンクーバーへ上陸したことが書かれています。きりは奉迎人として参加しました。五月十二日、ジョージ六世（エリザベス女王の父）の戴冠式が行われました。カナダの君主はイギリス国王です。バンクーバーの家々や建物にはイギリスとカナダの国旗が掲げられ奉祝にわいていることや、当日の夜にラジオでジョージ六世の演説を聞いたことを書いています。

バンクーバーに着いた頃のきりは日本が懐かしく、日本からの手紙を心待ちにしていた。「自分から進んで来たんですもの、自分の心を叱責するのみです」と英語を身に着けるため夫と離れて働きに出ました。渡航して三年後の手紙には毎日働き、たまに街や映画館に行っていること、春には公園へ八重桜の花見に行ったことなどが書いてあります。まだ言葉の壁が残りますが、ささやかな楽しみを持つて普通に暮らしている様子がうかがえます。

※図録「女子のたしなみ」コラム「安城ゆかりの女性4」カナダに渡った女性「徳田きり」を加筆修正しました。



バンクーバーで一番賑わうグランビルストリートの絵葉書

特別展 日本妖怪展 関連イベント

歴博講座

「月岡芳年新形三十六怪撰について」

11月2日(日) 14:00～ [講師] 野上真由美(本館学芸員) [定員] 60名(当日先着順)

月岡芳年「新形三十六怪撰源頼光 土蜘蛛ヲ切ル因」
明治25年(1892)(本館蔵)



関連イベント

「あいちの妖怪について聞いてみよう」

[日時] 10月25日(土)
●こども向け 10:00～
「気になる妖怪の謎、まるっと解決！」
●おとな向け 14:00～
「妖怪譚 - 語り継がれる闇と伝承 -」

[出演] 島田尚幸氏(あいち妖怪保存会)
大天狗(妖怪衆おどろ)

[定員] 各回20名(事前申込み先着順)



申込 10月8日(水)9:00～電話受付

妖怪スタンプラリー
「百鬼夜行デー」

館内に潜むリアル妖怪を探してスタンプを集めよう！
スタンプをすべて集めると、お菓子をプレゼント！

[日時] 10月26日(日)
11月1日(土)
①10:00～11:30
②13:00～14:30

[参加費] 500円

当日は
仮装での来場も歓迎！
仮装でお越しの方は別途
景品を進呈します。
9:00～17:00

白山信仰と三河三白山 関連イベント

記念講演会

尾張国・三河国と三禅定

[日時] 11月29日(土)14:00～
[講師] 福江充氏(北陸大学教授)
[定員] 60名

申込期間 10月1日(水)～11月8日(土)
※往復はがきでの申込は、11月8日(土)必着

あいち電子申請システムまたは
往復はがきにて受付(抽選)

・往復はがきの場合は、イベント名、氏名、郵便番号、住所、電話番号を明記し、
往復はがきにて安城市歴史博物館まで郵送。
・はがき1枚につき、1名申込となります。

泰澄和尚と白山信仰

[日時] 令和8年1月10日(土)14:00～
[講師] 堀大介氏(佛教大学教授)
[定員] 60名

申込期間 12月1日(月)～12月20日(土)
※往復はがきでの申込は、12月20日(土)必着

歴博講座

三河と白山信仰をめぐる諸相

[日時] 12月13日(土)14:00～
[講師] 千田佑香(本館学芸員)
[定員] 60名(当日先着順)

関連イベント

三河三白山を巡るウォーキング

[日時] ①11月30日(日)9:00～12:00 大岡白山神社・白山媛神社
②12月7日(日)9:00～12:00 桜井神社
[定員] 各10名(事前申込み先着順)
[参加費] 600円
[申込] 11月9日(日)9:00～電話受付

常設展無料開館 11月21日(金)

愛知県民の日
学校ホリデーにちなみ
常設展が無料となります



11月22日(土) 10:00～15:00

【場所】安祥城址公園(安城市歴史博物館隣接公園)

「あんじょう本まつり」は、本に関わるすべての人たち
一読む人・つくる人・届ける人が出会い、つながり、
自由に表現し合う“本の市場”です。

申込み・問合せ 歴史博物館 TEL:0566-77-6655



城址公園
万葉
花ごよみ
その八一 ナツメ

中国では古くから「二日食三棗、終生不頭老」という言葉があります。これは、一日三つ棗の果実を食べると老いることがない、という意味です。美女として名高い楊貴妃が好んで食べていたという話もあります。本来の棗はクロウメモドキ科の落葉小高木をさします。家庭用樹木としても植えられています。一般的に棗といえは冒頭の果実の方が知れ渡っているのではないのでしょうか。五月から七月に開花し、果実が収穫できるのは八月中旬から十一月初旬とされます。芽吹くのが他の草木よりやや遅れた初夏であることから「夏芽」とも書きます。和名の「なつめ」の由来は夏芽からともいわれています。

棗の果実(以下棗)にはカリウム・鉄分・葉酸・食物繊維が含まれ、古来より食用や薬として利用されてきました。中国や韓国では美容や健康に良いというだけでなく、縁起物としてもよく食されてきました。棗は生でも食べられますが、乾燥したものは生薬や菓子・料理に使われています。

梨 梨は奈良時代に中国から伝わったといわれていますが、万葉集で詠われているのはわずかに二首のみです。当時はまだ広く親しまれたものではなかったのかもしれない。後の平安時代に作成された薬物辞典である「本草和名」には棗のことが記されています。

万葉集での棗は宴席などで詠われたようでした。

玉掃刈り来 鎌麻呂むろの木と
棗が本とかき掃かむため
(長忌寸意吉麻呂)
梨 梨に粟次ぎ延ふ田葛の
後にも逢はむと葵花咲く
(作者未詳)

始めの歌は「鎌麻呂よ、玉掃を早く刈り取つて来い、室の木と棗の木の下の掃除したいから」という意味です。この歌は宴席で長忌寸意吉麻呂に玉掃(コウヤボウキのこと)・鎌・棗・むろの木(針葉樹のネズの木のこと)の四つの言葉を使つて即興で詠むようにいわれて作られたものです。意吉麻呂はこの宴席で八首の歌を披露しています。この八首の後に続くように作者未詳の歌としてみえるのが二首目の歌です。「梨や棗が実るよ、うに黍や粟が続いて実り、葛がづるを伸ばすように後でまた逢おうと葵の花が咲くよ」という意味ですが、この歌にはその奥に秘められた解釈があるとされています。「離れている(梨・棗) 離早(君(黍)と会え(粟)) ないけれど、はう葛のつるのように後に逢う(葵) ことができるよう花が咲いているよ」というものです。万葉集では葵もこの時のみ詠われたものとされます。中国



ゆかりの植物をよく知り、隠れた言葉の意味を含め、即興で歌を詠むという、豊富な知識を持つ人の歌とされています。意吉麻呂は持統・文武天皇時代に活躍した下級の宮廷歌人といわれています。大宝二年(七〇二)、持統上皇の三河国行幸の際には意吉麻呂も供として従い、歌を詠んでいます。姓の忌寸は主に帰化人に与えられたということから意吉麻呂も渡来系の説があります。作者未詳の人物も意吉麻呂と近い渡来系の人物だったのではないのでしょうか。

安祥城址公園には市民ギャラリーと笙の塔の間に棗の木があります。歴史博物館や市民ギャラリーにお越しの際には、しばし棗を愛でただけたら幸いです。

安祥城址公園に咲く万葉集ゆかりの花や植物たちを紹介していきます。

※定員数・開催方法や日時・内容等を変更する場合があります。最新情報はHPにてご確認ください。
※お客様よりいただいた個人情報は、本事業のご案内のみに活用させていただきます。